



## 説教要旨「効率の悪い種まき」

マルコによる福音書 4章 1～19節

このたとえ話で、種を蒔く人はなぜこんなに無駄なことをやっているのでしょうか。なぜ道端や石地や茨の中に種を蒔いているのでしょうか。なぜ初めから良い土地にまっしぐらに出かけて行って、そこに種を蒔かないのでしょうか。良い土地に落ちた種が100倍の実を結んだ。と言いますが、蒔いた種の半分が悪い土地に落ちたのだったら蒔いた種全体の50倍にしかになっていないことになります。

わたしたちはどうしても、収穫が多いか少ないかといった目先の利益にばかり思いがとらわれてしまいます。けれども、このたとえ話を語るにあたってイエス様はまず、「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った」。と言って、種を蒔く人に注目させようとしているのです。この種まき人は、わたしたちの目には、不毛に思えるような土地へ種を蒔きに出て行きます。もし効率重視で、最初からよい土地にしか種が蒔かれなかったなら、どうしてわたしたちのような者に種が蒔かれることがあったのでしょうか。わたしたちは「道端」であり、「石だらけ」の土地であり、「茨に覆われた」土地です。御言葉が蒔かれても、それを聞けない時があり、聞いても根付かない時があり、誘惑に惑わされることがある。しかしそんなことは全く関係なく主はわたしに種を蒔いて下さったのです。

わたしのような者に種を蒔いて下さった神の愛に感謝して、喜びをもって、イエス様の種まきを一緒に担っていくのがキリスト者なのだと思います。わたしたちは弱い者です。苦勞に見合うだけの成果が上がらなければ、心が萎えてしまい、前へ進めなくなってしまう。けれども、このどうしようもないわたしに目をとめ、種を蒔いてくださった神様は、そのように弱いわたしのために収穫までも用意して下さるお方です。

神様はわたしたちの弱さをもすべてご存じです。わたしたちが無力さに打ちひしがれ、立ち上がれなくならないように、時に30倍、60倍、100倍もの実りを与えてくださり、わたしたちを励まし、力づけてくださるお方なのです。

(2022・2・13 説教者：稲垣真実)